

「認知症不安ゼロのまち」の実現を目指した認知症施策を紹介

TOPIC

1 全国初 大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例を制定

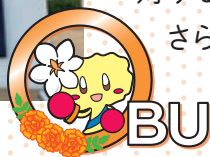


▲OBUオレンジリングモニュメント

平成29年12月に、全国初となる認知症施策の基本条例を制定し、平成30年4月1日に施行しました。

市の責務と施策を定め、市民・地域組織・事業者・関係機関・市の役割についても記載し、各々が連携しながら認知症に対する不安のないまちの実現を目指しています。

さらに、市の条例をきっかけに、県が条例を、国が法律を制定するなど、同様の取り組みが全国に広がりました。



TOPIC

2 認知症サポーター養成2万人を達成



▲表彰式の様子

平成19年度から取り組んできた認知症サポーターの養成は、令和4年7月に2万人を達成しました。このサポーターは、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域・職域で当事者やその家族を支援する人です。市では、小・中学校をはじめ、市内各地で積極的に認知症サポーター養成講座を進めた結果、この取り組みが評価され、令和4年11月に「第11回健康寿命をのばそう！アワード」で、厚生労働大臣優秀賞を受賞しました。

TOPIC

3 認知症高齢者などの行方不明者捜索模擬訓練を実施



▲協力事業所は、認知症見守りステッカーを掲示

行方不明者が発生した時に、自治区などで円滑に情報伝達・捜索ができるよう、自治区の対応マニュアルなどの作成支援・情報伝達の訓練などを実施しています。

さらに、市内53事業所に協力を呼び掛け、「地域見守り活動に関する包括協定」を締結し、日常業務で何らかの異変に気付いた場合に市に通報するなど、見守り体制の強化を図っています。

NEW

4 10月1日(火)開始 大府もの忘れ検診



65歳以上の方または65歳未満で認知症と診断された方を対象に、認知症の認知機能検査に係る検査費用の自己負担分を助成する「大府もの忘れ検診」を10月1日(火)から新たに開始します。

市民の認知症の早期発見・早期対応を促し、予防に関する取り組みへの参加勧奨や個人賠償責任保険への加入、ヘルプマークの配布など、市が行うさまざまな認知症施策につなげ、認知症に対する不安を解消するとともに、長期的には、市の医療給付費・介護給付費の抑制を図ります。

大府から全国へ 支援の輪を広げよう

認知症不安ゼロのまち

高齢障がい支援課 ☎(45)6289

の実現を目指して

「認知症不安ゼロのまち」の実現を目指す大府市。

認知症への正しい理解を深め、

認知症の方やその家族を温かく見守る地域づくりを進めています。

このたび、市では、この地域づくりの一助となる

「認知症ヘルプマーク」を、全国で初めて制作しました。

このマークを認知症の方が身に付けることで、

周囲の人々が気軽に手を差し伸べられる支援の輪が広がることを期待しています。

今号の特集では、市が取り組む認知症施策を紹介するとともに、

当事者の家族や支援者の皆さんがこのマークに寄せる思いを聞きました。



高齢者の5人に1人が認知症になる時代が到来

令和7年、日本では認知症の方が700万人を超え、65歳以上の方の約5人に1人が認知症になると推計されています。

市でも、令和6年8月現在で、3千人を越える方が認知症と推定され、今後も増加していく見込みです。

出典「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」(H26)

DATA 市内の現状(R6.8.1時点)

■ 人口	9万2991人
■ 高齢者人数	2万152人
■ 高齢化率	21.7%(全国平均29.1%)
■ 認知症推定人数	3022人

9月21日は「認知症の日」

実践型ワークショップイベント「認知症世界の歩き方」を開催

認知症の方が生きる世界や見ている景色を体験するとともに、対話を通じて生活環境を改善するためのスキルを学びます。

- ▶ 日時 9/21(土) 13:00~17:00
- ▶ 場所 アローブ
- ▶ 定員 50人(先着順)
- ▶ 料金 無料
- ▶ 申込 8/26(月) 9:00から市ウェブサイトまたは申込先窓口へ。



問・申込先/健康未来政策課 ☎(85)3232
高齢障がい支援課 ☎(45)6289

PICK UP

認知症への理解を深める 内容が盛りだくさん

- 13:00ー 認知症ヘルプマークお披露目
- 13:30ー NPO法人issue+designの稲垣美帆さんによるワークショップ
- 15:15ー 認知症サポーター養成講座

同時開催

認知症カフェ&出張 ものわすれなんでも相談室



認知症になっても、 自身の経験を生かして社会へ貢献

康恵さん

康恵さんは、15歳の頃から美容師として働き、これまでに多くの方々のヘアセットを経験してきました。現在はスピカで、定期的に頭髪のカットボランティアを行っています。



INTERVIEW 多くのコミュニケーションが生まれることがこのボランティアの魅力

令和4年6月から、頭髪のカットボランティアを始めました。初めは、屋外でカットしていたので、暑くてお客さんが汗だくになってしまい、定期的に行うことが難しかったです。今は、スピカで場所を貸してもらっているので、定期的に行うできています。

お客さんから受けた要望をずっと覚えていることが難しいので、紙に書いて目に見えるところに常に置いています。それでも足りないところがあれば、家族に声掛けのサポートをしてもらいます。きれいになりたいと思ってきてくれるからこそ、その思いに精一杯応えられるよう頑張っています。お客さんの喜んでる顔を見たときは、とてもうれしいですし、お客さんとお話しながら髪を切るのがとても楽しいです。

家族の思い

サポートする体制があれば、誰でも自分らしく輝ける

妊婦の方が付けているマタニティマークは非常に分かりやすいし認知度も高いので、電車内で見掛けただけで多くの人が席を譲るなどの手助けができます。今回誕生する認知症ヘルプマークも、全国的に認知度が上がってくれたらいいと思います。認知症の方は、買い物の時に手間取ってしまったり、一人で歩いていて道が分からなくなってしまうことがよくあります。このマークを付けていることで、周りの人が声掛けしてくれるなど、認知症の方への理解や心配りが広がっていくとうれしいです。

認知症と一言で言っても、その症状は本当に人それぞれです。認知症に対する正しい理解と支援体制、そして受け入れもらえる環境が整えば、認知症の方は自分らしく、いきいきと地域の中で輝けると思います。



康恵さんの家族

支援者の思い

人の目は地域を守る大きな力となる

認知症ヘルプマークの制作は全国初の試みということで、マークに対する認知と正しい理解の普及・啓発には時間はかかると思いますが、認知症になっても住み慣れた地域でその人らしく生活する一助になったらすてきだと思います。しかし、認知症に対する正しい理解が進んでいなければ、このマークを付けること自体がレッテルを貼ることになってしまったり、悪用されてしまったりする恐れがあるので、正しく啓発していく必要があります。認知症は、見た目では分かりません。もし街中で認知症ヘルプマークを付けている方がいて、何か困っている様子であったら優しく声を掛けてあげてください。人の目は、地域を守る大きな力になります。このマークの誕生により、未然に事件・事故を減らし、認知症の方が安心して歩けるようなまちになるといいと思います。

プランテラス陽だまり

康恵さんのケアマネジャー 大橋直子さん



認知症ヘルプマーク

のデザインが決定しました



市は、認知症の方が、街を一人で歩いているときや一人で困っているときに、見守りや援助を受けやすくなるよう、認知症の方が身に付ける「認知症ヘルプマーク」のデザインを公募しました。

全国各地から計293点の応募があり、厳選なる審査の上、岐阜県在住の大学生・牧野さくらさんのデザインに決定しました。

VOICE

手を差し伸べる様子を表現

デザイン作者

牧野さくらさん

黄色が認知症の方、白色が手を差し伸べている地域の人を表しています。黄色は、危険・注意などを伝えるときに使われることもあれば、明るさ・元気・幸せなどの意味も持っている色です。

不安や戸惑いから、黄色のシグナルが出ている認知症の方に手を差し伸べ、明るく幸せになってほしいという想いを込めました。遠くからこのマークを見た際に、ニコッと笑顔に見えるようデザインしています。

ABOUT 認知症ヘルプマーク

ラバー素材のパスケース(サイズ：横65mm×縦100mm)に、デザインを反映させて制作します。

9月24日(火)から、認知症の方や認知症の疑いがある方を対象に高齢障がい支援課窓口で配布します。

TRIGGER 誕生のきっかけ



令和5年9月21日の世界アルツハイマーデーに行われた岡村市長と、鉄道事故で認知症の父親を亡くした高井隆一さんによる対談の中で、高井さんから「全国で利用できる認知症ヘルプマークを大府市が作ってみてはどうか」との提案をきっかけに検討を進め、制作に至りました。

大府から全国へ、認知症ヘルプマークが普及してほしい

高井隆一さん

認知症だった自分の父親には、無事に帰ってきてほしいという思いで、服や帽子などに名前と電話番号を書いた布製の名札を縫い付けていました。しかし、個人情報に記載した名札だと悪用されて、さまざまな詐欺被害にも遭いかねません。なので、この名札に代わるもので、認知症に特化したマークが誕生したらと思い、提案させていただきました。

今回、全国各地から293点ものデザインが集まったと聞いてとても驚きました。一つ一つデザインを見せていただきましたが、皆さんの思いが伝わってきて、とてもうれしかったし、このように多くの方に関心を持っていただけたことに本当に感謝しています。

大府市で誕生した認知症ヘルプマークが、全国へと普及して、認知症の方やその家族の皆さんが、安心して暮らせるようになる一助になってもらえたらと思います。

